

● 和小屋組について。

屋根の種々な形をつくり出す構造は、小屋組に現れるが、本造住宅の初期では、小屋組と壁が一体から始まり、以後は屋根と壁体とは区別された構造として発達してきた。我が国での伝統的な小屋組が和小屋組である。

○和小屋組の種類を大きく分類して、次の数種類に区別できる。①京呂組み、②折置組み、③与次郎小屋組み、④投掛け小屋組み、⑤東立小屋組み、に区別する。

①京呂組み。～一般的な構法で、現在よく使われているものであり、柱の上に軒桁・妻桁を横架設して、その上に小屋梁を架設し組みあげてゆくといった順序で、この構造工法が実際に作業をすすめてゆくにもやりやすい構法である。



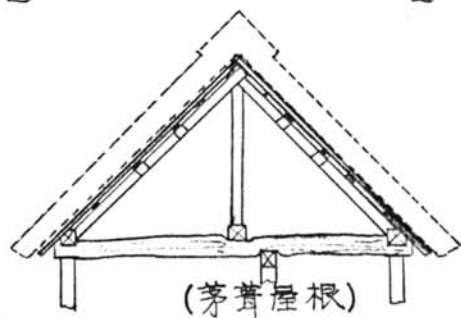
京呂組み

②折置組み。～これは軸組との組方の区別になるが、折置組は、柱の上に直接小屋梁を乗せかけてゆき、その上に軒桁を置いてゆく工法である。この構法には柱と梁が必ず直結するので丈夫な構法であるが、あまり一般的な構法ではなく、住宅建築などには現在での利用度は少ない。



折置組み

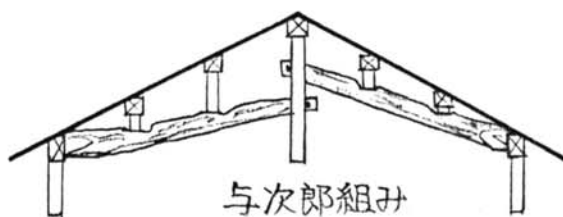
折置組みが利用されている例として、軽いもの小型の建物や、社寺建築で渡り廊下などに利用されている。軽い屋根材などの場合軒桁を柱より外側に架構することにより丈夫な構造となる。



(茅葺屋根)

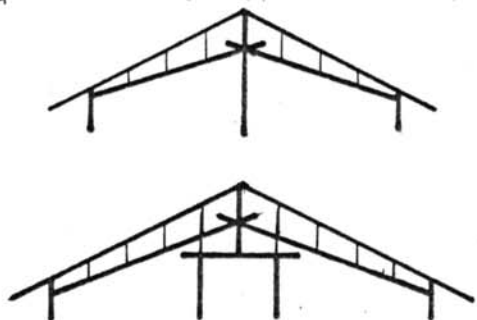
③与次郎小屋組み。～古来の土蔵や酒蔵など屋根裏を利用した大きな建物などに使われていた構法である。

特徴としては、棟持柱を建て登り梁をさして束、母屋を組み上げて屋根裏の空間を広く取り込んでいることで、また大きさによっては、棟持柱を建てずに牛梁を架けて、平秤梁(二重梁)で束を受け、棟木を受けるようにしている。



与次郎組み

この構法は近年ではあまり利用されていないが、この型状に近い応用はよく利用されている。



④投掛け小屋組み。～最も簡単な構造で、壁付の桁(木取り)と軒桁をむすび垂木を渡したもので、主になる構法ではないが、下屋(1階小屋組)などはこの構法になっていることが多い。また最近の建物では片流れ屋根などでは、投掛小屋組みと言ってもよいものである。